

1. わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。（17:20-21）
 - a. イエスが十字架に向かう前に祈られた最後の祈りの一つに弟子たちのための祈りがあったが、その次にはイエスはいずれ弟子となる人々 — つまりあなたや私のために祈られている。
 - b. あらゆる時代のクリスチャンのためにイエスが祈られていることは、わたしたちが一つの群れとなることである。もしあなたが教会のために最後の祈りを一つするとしたらどのように祈るだろうか？教会の一致がそれほど大切なら、サタンが教会を攻撃するにはどのような手段を用いるだろうか？
 - c. もし私たちがイエスと、そして父なる神と一つとなるのなら神はこの世の目と心を開いてくださる。もし神を信じない世にしておきたければ、キリストのからだを分裂させたままにしておけばよいだけである。

2. またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。（17:22-23）
 - a. 今やキリストのからだは、父なる神がイエスに授けた同じ栄光を受けたとイエスははっきりおっしゃっている。ただ残念なことに、ほとんどの人はイエスがこの地上を歩かれた時その栄光を見る目を持っていなかったし、今の時代においても教会（イエスの弟子たち）の栄光を見ることできない。もしその栄光を見る目があれば、クリスチャンたちの批判も劇的に減るだろう。
 - b. もし私たちが見る目、聞く耳、理解する心を持っていれば、キリストと父なる神が内に住んでおられる他のクリスチャンたちに対して批判的になることもなくなるであろう。教会の中には義の定義について聖書的でない解釈をしている人もいます。私は思わざるを得ない。義とは他人の過ちをいくつ見つけられるかということではない。イエスが来られたのは教会や人々を非難し罪に咎めるためではない。私たちが罪の意識にさいなまれて歩む時にはキリストとともに、あるいはキリストの内に歩んでいない。（これは人の誤りを指摘せよ、という意味ではない。神の矯正のやり方とサタンの罪の定め方には違いがある。）
 - c. 私たちが神とともに、また神の内に歩むとこの世は神を信じるようになり、別の霊の中に歩むとこの世は信じなくなる。

3. 父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。正しい父よ。この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。」（17:24-26）
 - a. 一致するということと合わせてイエスが望まれることは、私たちがイエスがおられる場所にとともにいる、ということである。真の愛があれば互いを慕い一緒にいたいと思うはずである。キリストはわたしたちのうちにおられるが、父なる神の右に座しておられるので、今は肉体的には離れている。
 - b. イエスはこの地上におられる間、父なる神のことを示された。イエスを見た者は父なる神をも見たのである。ただしイエスは父なる神のことを完全に明らかにされたわけではない。この世が神を知り信じるようになるために、イエスはこれからも私たちがより深く父なる神のことを愛せるように示し続けられる。